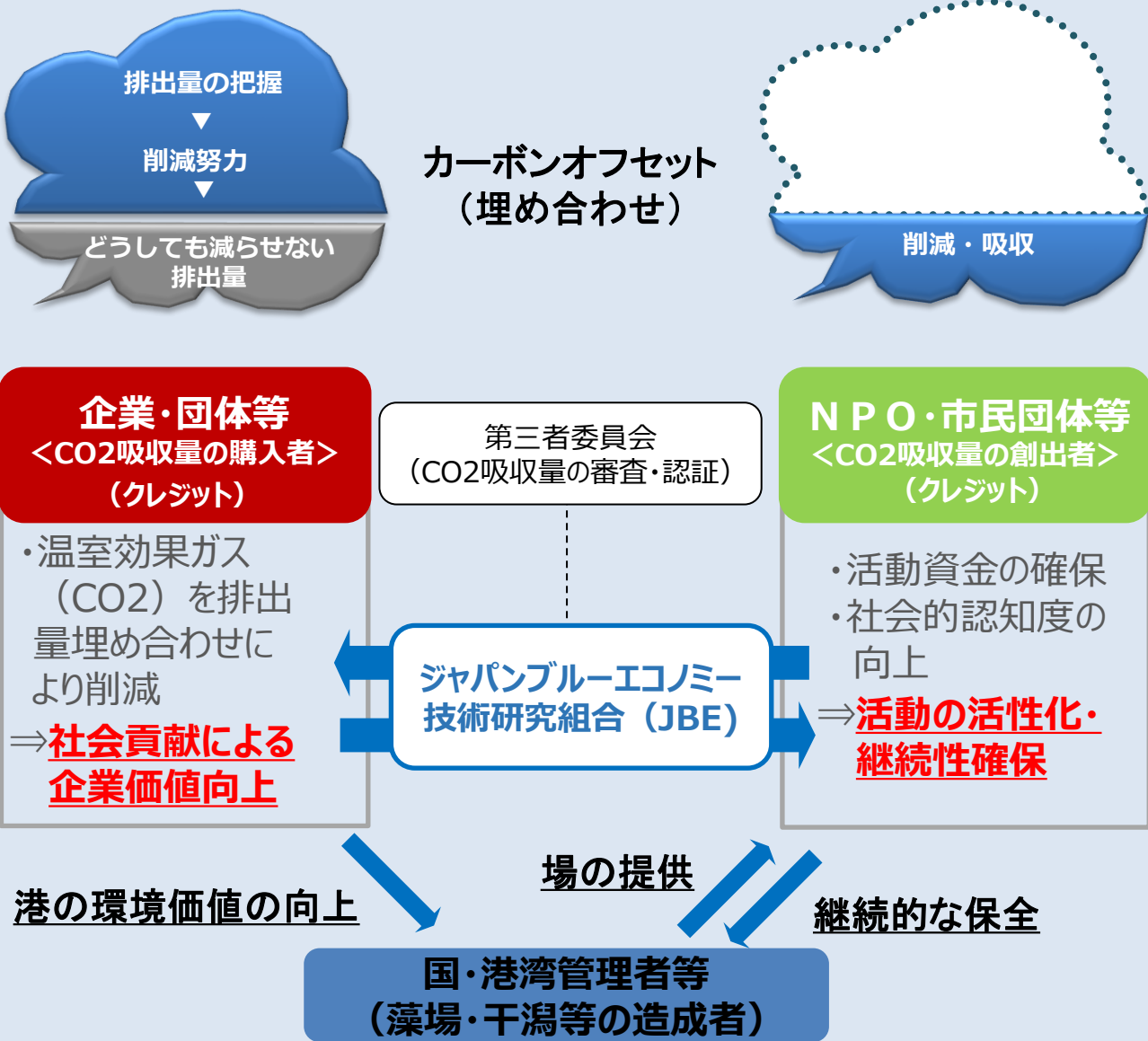


ブルーカーボン・オフセット・クレジット制度の試行イメージ



【横浜港】

・浚渫土砂を活用し、横浜ベイサイドマリーナ横に造成した藻場において、約10haを超えるアマモ場を再生。

活動団体：横浜市漁業協同組合
NPO海辺つくり研究会
金沢八景-東京湾アマモ場再生会議

CO2吸収量 (クレジット) : 19.4t-CO2 (令和3年度)

【神戸港】

・港湾整備事業により発生した防波堤撤去材を流用して、神戸港兵庫運河に造成された約0.4haの干潟において、活動団体による保全活動実施。

活動団体：兵庫漁業協同組合
兵庫運河を美しくする会
神戸市立浜山小学校
兵庫・水辺ネットワーク

CO2吸収量 (クレジット) : 1.1t-CO2 (令和3年度)

【徳山下松港】

・港湾整備事業により発生した浚渫土砂を活用し造成された約29haの人工干潟において、アマモ場及びコアマモ場が形成。

活動団体：山口県漁業協同組合 周南統括支店
大島干潟を育てる会
周南市

CO2吸収量 (クレジット) : 44.3t-CO2 (令和3年度)

【北九州港】

・藻場造成効果の高い石炭灰と銅スラグを主原料としたコンクリート代替材料を用いた消波ブロック等を製作・設置 (設置面積：約6.4ha)。アラメ等が繁茂し海域環境と生物共生の場を形成。

活動団体：J-POWER若松総合事務所
CO2吸収量 (クレジット) : 15.6t-CO2 (令和3年度)